2021 年 12 月 16 日

うみゴミ対策琵琶湖プロジェクト実行委員会委託業務

「ポイ捨て見てるよ坊や」看板調査結果

滋賀県立大学廃棄物バスターズ

【調査概要】

うみゴミ対策琵琶湖プロジェクト実行委員会が、2021 年２月に彦根市の琵琶湖岸３カ所に設置した「ポイ捨て見てるよ坊や」看板の効果を検証するため、約 10 カ月の設置期間中に２回、ごみの量と種類などを調査する。

【看板について】

←看板デザインは左図の通り。

・昨年度、県内の小学生から応募のあった 16 点から選ばれた。
米原市の小学５年生、塚口春香（つかぐち・はるか）さんの作品。
琵琶湖の環境保全への訴えとポイ捨てダメの訴えが一目で分かりやすく、一見ドキっとするような表情で見張られている様子が特徴。

・看板の大きさは Ａ2サイズ（420 ㎜ × 594 ㎜）
設置後の高さは 1,421 ㎜

・看板にはプロジェクトの趣旨や、自然に還る素材を一部使用していることが書かれている。↓

設置：うみゴミ対策琵琶湖プロジェクト実行委員会　後援：滋賀県

日本財団 海と日本 PROJECT　CHANGE FOR THE BLUE 海の未来を変える挑戦

この看板は、日本財団「海と日本プロジェクト」が取り組む「CHANGE FOR THE BLUE」の活動の一環で、滋賀県内の小学生から募集し選ばれた作品です。また、この看板の表面は、廃プラを炭化させた自然に還る素材を使用しています。　協力：(株)大木工藝

【設置場所】

①湖岸緑地　大藪公園（彦根市大藪町）

利用者の数は一番少なく、散歩や一人で読書する人などが見られる公園。バーベキューは禁止されている。

②湖岸緑地　松原公園（彦根市松原町）

その名の通り、湖岸に美しい松の木が並ぶ風光明媚なスポット。主に観光客や運動部員らが利用する。

③湖岸緑地　南三ツ谷公園（彦根市南三ツ谷町）

バーベキューやキャンプが楽しめる人気スポット。遊具もあり、週末は子どもたちの姿もある。

調査場所３カ所で、それぞれ①看板付近　②看板が見えないエリア　の２グループに分かれて、ゴミ調査データカードに従って、種類と数を調べる。

ゴミ調査データカード

■調査年月日：　年　月　日　■記入者名：

■実施団体名：

日本財団 海と日本 PROJECT　CHANGE FOR THE BLUE 海の未来を変える挑戦

包装容器(飲食)		
0	例	正正 10
1	飲料ペットボトル	
2	飲料ビン	
3	飲料缶	
4	食品の発泡スチロール容器(海老トレイ、カップ麺など)	
5	食品のプラスチック容器(弁当、トレイ)	
6	食品のポリ袋(菓子袋など)	
7	ペットボトルのキャップ	
8	ストロー(マドラー)	
9	使い捨スプーン,フォーク	
10	その他	

包装容器(飲食以外)		
11	プラスチックボトル(洗剤、シャンプーなど)	
12	スプレー缶 カセットボンベ	
13	買い物レジ袋	
14	ポリ袋(レジ袋、食品用以外)	
15	紙袋	
16	プラスチックのふたキャップ	
17	その他	

生活用品		
18	衣類	
19	靴、サンダル	
20	電池	
21	玩具(花火、ボール)	
22	釣り具(釣り糸、ルアー)	
23	ひも、ロープ	
24	マスク	
25	その他	

タバコ		
25	タバコの吸い殻	
26	タバコのパッケージ包装	
27	使い捨てライター	

その他		
28	金属類	
29	陶器	
30	その他	

※ごみ袋の数

可燃ごみ	プラスチックゴミ	ペットボトル	その他

破片・かけら(元の形の2/3以下になった)

31 硬いプラスチックの破片	個数	33 レジンペレット（有・無）	個数	レジンペレット 2～5mmのプラスチックの粒
32 ポリ袋、シートの破片		34.ガラス、せとものの破片		

←ゴミ調査データカード

【調査１回目】

日時：2021 年６月 29 日㈫11:30～15:00

調査メンバー：　　岩井柊太、寺倉啓悟、中尾和樹、羽田野歩美、長田直也

調査結果：

看板付近		看板が見えないエリア	
包装容器（飲食）	194	包装容器（飲食）	89
包装容器（飲食以外）	16	包装容器（飲食以外）	72
生活用品	35	生活用品	63
タバコ	31	タバコ	55
その他	4	その他	61
破片・かけら（元の形の 2/3 以下になったもの）	36	破片・かけら（元の形の 2/3 以下になったもの）	63

燃えるごみ・・・9.7 ㎏

燃えないごみ・・・2.6 ㎏

包装容器の量に関しては看板付近のほうが多いという結果だが、他の種類のゴミに関しては看板が見えないエリアでのゴミの量が圧倒的に多かった。看板がポイ捨てに対する抑制効果はあったと感じられます。また、コロナ禍によるマスク着用が一般化してきて、マスクのゴミが多いように感じられました。

【調査２回目】

日時：2021 年 11 月５日(金)13:00～16:00

調査メンバー：　　寺倉啓悟、中尾和樹、長田直也、小谷徹也

調査結果：

看板付近		看板が見えないエリア	
包装容器（飲食）	105	包装容器（飲食）	98
包装容器（飲食以外）	4	包装容器（飲食以外）	96
生活用品	10	生活用品	94
タバコ	22	タバコ	91
その他	20	その他	73
破片・かけら（元の形の 2/3 以下になったもの）	41	破片・かけら（元の形の 2/3 以下になったもの）	59

燃えるごみ・・・4.2 ㎏

燃えないごみ・・・2.8 ㎏

６月に調査した時より看板付近と見えないエリアで、ゴミの量に顕著な差が認められました。飲食の包装容器は使用頻度が多いためかポイ捨てされやすい傾向にあると考えられます。これはピクニックなどの公園内での飲食が多いことによるものだと考えられる。

【全体を通じて考察】

６月と 11 月と計２回のごみ調査を行い、どちらも看板付近でのゴミの量は少ないとい結果であった。燃えるゴミが大幅に減ったことは（特に飲食関係の包装容器）、訪れた人のポイ捨てが減ったことの寄与が大きいと考えられ、看板がポイ捨ての抑止力につながっていると考えられる。看板のデザインは、子どもに見張られているというドキッとするもので、瞬間的に感じる罪悪感がより効果を増幅させていたのではと、デザインの効果もあったと考えれらる。コロナ禍によるマスクなどのゴミの増加がみられ、時代に即した不法投棄への啓発が必要になってきていると個人的には感じており、使い捨ての物ではなく、繰り返し利用できるものを購入するといった、ゴミを減らすではなく、ゴミになるものを減らす、こういった意識を刺激できるものがあればと、この活動を通じて感じました。